

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

山梨県 富士吉田市立富士見台中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成29年6月13日 (火)
- 場 所 : 富士吉田市立富士見台中学校
- ク ラ ス : 1年 (32名)、2年 (14名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ: 運動の時間 (2時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・鶴岡先生から自己紹介。「全力で取り組む」「クラス皆で協力、相談し取り組む」「ルールを守る」という3つの約束事を守って取り組んでほしいと話し、授業を受ける中で自分の得意なこと、苦手なことに気づいてほしいと皆に伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3班に分かれて8の字跳び (90秒×3回) を実施。制限時間内で跳んだ回数を競い、引っ掛かったら最初から数え直すことをルールとして伝えた。跳ぶ前に目標回数を決め、各回終了後に跳べた回数を発表。作戦タイムを設け記録を更新するため各チームで話し合った。終了後鶴岡先生から、一生懸命考えた結果、毎回回数が増えていったのでとても良かったと伝える。



4. まとめ



・冒頭で鶴岡先生が話した3つの約束事がしっかり守れたかを皆に確認。次の座学の時間は、運動の時間を振り返りながら授業を進めていくが、授業の最初に伝えた自分の得意なこと、苦手なことを見つけることができたかを考えながら教室に戻ってほしいと伝え、授業終了。





実 施 内 容

■授業のながれ：座学の時間（3時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・鶴岡先生から改めて自己紹介をした後、授業の目的を伝え、トリノ大会の映像を見せながら当時の状況や心境を説明。オリンピックの歴史や鶴岡先生の経験をもとにオリンピックバリューについて説明した後、グループワークへ移る。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・皆にとって、オリンピックバリューの3つの言葉はどのように当てはまるか、運動の時間で感じたこと(良かったこと)を話し合ってみようという発問。
・力を1つにして協力し合った、皆でどうしたら跳ぶ回数が増えるかを考えた(エクセレンス)、全員で声を出した、失敗しても声を掛け合った、失敗を次に活かせた(フレンドシップ)という意見が挙がった。

4. まとめ



・オリンピックバリューは、苦手なことに挑戦する時や得意なことを活かす時に非常に役に立つ考え方であると説明。目標に向かって困難なことも多くあるかもしれないが、得意なことだけでなく苦手なことにも積極的にチャレンジし、声をかけあって頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

